

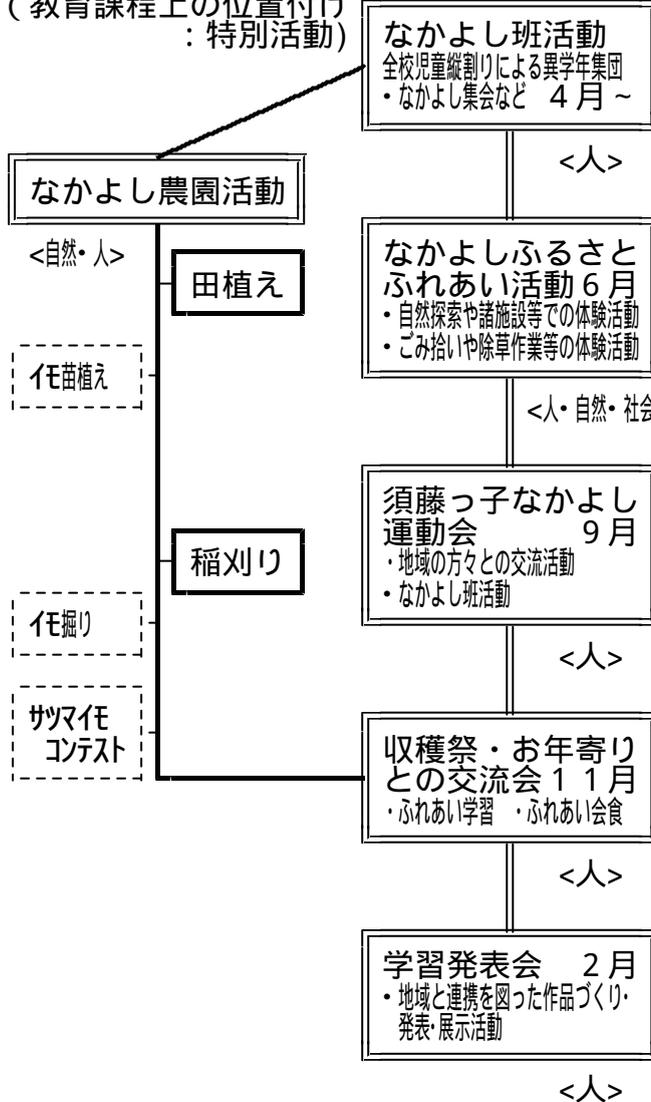
やよさを体感し，ふるさと須藤を愛する心を育てる。

(3) 奉仕活動や様々な体験活動を通して，社会の一員として助け合って生活していこうとする態度を育てる。

4 主な体験活動 - ふるさと須藤ふれあい活動(人・自然・社会とのふれあい) -

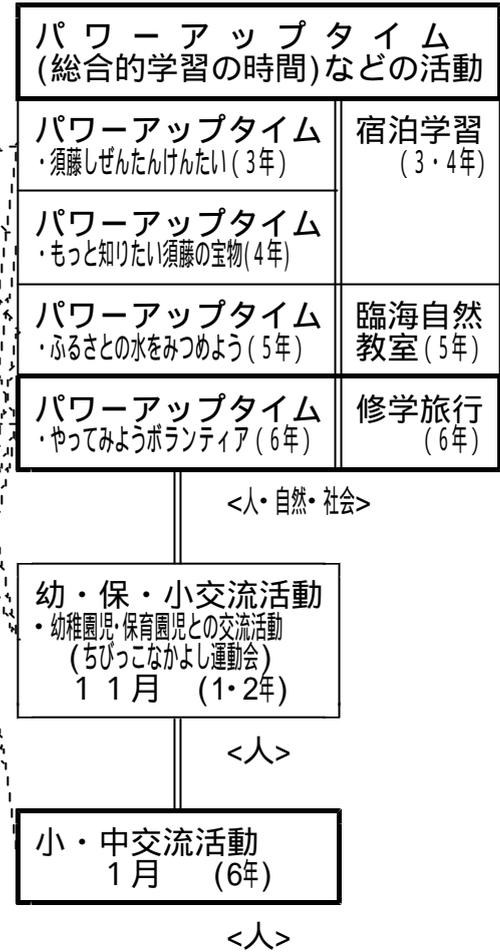
【全校の活動】

(教育課程上の位置付け：特別活動)



【学年の活動】

(教育課程上の位置付け：総合的学習の時間，特別活動)



5 体験活動の実際 (主な実践例)

(1) なかよしふるさとふれあい活動(教育課程上の位置付け：特別活動)

- ア 日時 平成14年6月14日(金) 8:30~12:05
- イ 場所 学区内各方面
- ウ 参加者 全学年児童，地域講師，支援ボランティア，本校職員
- エ ねらい

(ア) 異学年集団であるなかよし班の活動を通して，上級生と下級生が互いの役割を果たし，一緒に活動する中で思いやりの心や責任感を育て，互いの信頼関係をより深めることができるようにする。

(イ) 地域の自然，文化，歴史等にふれることのできる場所で，地域講師から話を聞くなどして，自分たちの地域について見つめ直し，地域の特性やよさに気づ

けるようにする。

(ウ) 活動場所に応じた美化活動などのボランティア活動を行い、豊かな心を育む。

オ 内容

方面 (方法)	なかよし班 人数	活動内容	地域講師	引率 職員	支援ボ ランティア
千本方面コース (徒歩)	3・4班 20名	・千本城趾での話 ・須藤保育園(園児との遊び /花植え・園庭清掃)	須藤保育園	2名	-
大瀬・鎌倉山コ ース (バス)	1・2班 22名	・鎌倉山での話 ・鎌倉山(虫とり、スケッ チ/クリーン作戦)		2名	1名
大瀬・キャンプ 場コース (バス)	5・6・8 班 30名	・キャンプ場での話 ・キャンプ場(虫とり/ クリーン活動) ・那珂川大瀬河原(釣り、スケッ チ・川遊び/クリーン作戦)		2名	2名
生井方面コース (バス)	7・9・10 班 30名	・生井薬師堂(クリーン作戦) ・竹細工体験 ・生井の渡し場での話 ・渡し舟乗船体験		2名	2名

カ 成果と課題

(ア) 成果

- ・自分たちの思いをなかよし班別に実際の活動につなげることができた。
- ・地域の自然の豊かさを川遊びなど直接体験を通じてふれることができた。
- ・活動の場所に応じたボランティア活動がそれぞれの班でできた。
- ・学校支援ボランティアの協力を得ることができ、児童の安全確保ができた。

(イ) 課題

- ・活動の場所をさらに開発し、地域のよさを子どもたちにふれさせるとよい。

(2) 収穫祭・お年寄りとの交流会(教育課程上の位置付け:特別活動)

ア 日時 平成14年11月16日(土) 8:30~12:50

イ 場所 須藤小学校体育館・校庭・各教室

ウ 参加者 全学年児童, 地域の高齢者, 収穫祭ボランティア, 本校職員

エ ねらい

(ア) 昔の遊びや会食などで楽しいふれあいの時間をもつとともに、地域のお年寄りとのかかわりの中で、相手の気持ちや立場に気づき、相手の気持ちを考えて行動できるようにする。

(イ) これまで育ててきたお米の収穫を祝うとともに、働く喜びや収穫への感謝の気持ちを高め合う。

(ウ) 地域の施設で行われる催しについて知り、自分たちの地域の特性やよさに気づけるようにする。

オ 内容

(ア) 開会行事(体育館) < 8:30~ 8:40 >

(イ) ふれあい学習 < 8:50~10:15 > *別掲

(ウ) 熱気球教室(校庭) < 10:30~12:00 >
熱気球国際大会関係者(8名)

(エ) ふれあい会食・閉会 < 12:10~12:50 >

(オ) もちつき・豚汁づくり(校庭, 他) < 8:10~10:30 >

6年全児童(23名), 収穫祭ボランティア(43名), 職員(3名)

*ふれあい学習

学習内容	活動場所(会場)	高齢者	児童(6年)	担当職員
こま回し・ベーごま・輪投げ・ビー玉・花いちもんめなど	体育館(3年教室)	6名	18名(3名)	1名
折り紙・あやとり・けん玉・めんこ・かごめかごめなど	1・2年教室(1・2年教室)	6名	22名(4名)	1名
かるた・百人一首	4年教室(4年教室)	3名	14名(5名)	1名
竹細工・どんぐり細工	図工室(図工室)	5名	36名(6名)	2名
ゲートボール	校庭(6年教室)	4名	13名(5名)	1名

カ 成果と課題

(ア) 成果

- ・ 児童は希望別にグループづくりをしたため、意欲的に活動できた。また、活動を通して、地域の高齢者の方々となごやかにふれあうことができた。
- ・ ふれあい会食では、6年生のリーダーシップで楽しく会食できた。
- ・ 収穫祭ボランティアの協力で、会食準備がほぼ予定どおりできた。

(イ) 課題

- ・ 高齢者の参加方法を見直し、地域住民に呼びかける方法を工夫するとよい。
- ・ 地域団体との日程調整を図る必要がある。

(3) 学校支援委員会

ア 委員の構成 地区区長会長(3名), 地区老人会長(3名), 学区中学校長(1名), 学区幼稚園長(1名), 学区保育園長(1名), 小学校後援会長(1名), P T A (12名), 小学校職員(6名)

イ 内容(年2回の定例会を予定)

第1回定例会(平成14年11月1日)

- ・ 組織づくり ・ 意見交換(豊かな体験活動推進事業の諸計画について)

第2回定例会(平成15年2月24日)

- ・ 意見交換(平成14年度の反省及び平成15年度推進事業計画について)

6 今年度の成果と課題

(1) 成果

ア なかよし班の活動, 幼・保・小・中の交流活動など異年齢の幼児・児童・生徒による共同活動を繰り返し推進することで, 人とのかかわりを肌で感じ, どうあったらよいか体験する場となるとともに, 少しずつ縦のつながりができ, 他の場所でも自然に活動する場面がみられるようになってきた。

イ 地域に出向き, 体験を通して, 地域の人や自然, 文化財等のすばらしさを実感でき, ふるさと須藤のよさを知るよい機会となった。

ウ 高齢者を中心とした地域住民との世代を越えた交流活動は, 人と人との関係やあり方を学ぶよい機会となった。

(2) 課題

ア 学校支援委員会と連携し, 地域での活動場所, 指導者等をさらに開発し, 体験の場の拡大に努め, 幅広い活動をする。

イ さらに充実した活動を展開するために, 活動の評価のあり方について工夫する。